

製品名: BCAR3 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07487**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	92kDa

抗原情報

遺伝子名	BCAR3
別名	BCAR3; NSP2; SH2D3B; Breast cancer anti-estrogen resistance protein 3; Novel SH2-containing protein 2; SH2 domain-containing protein 3B
遺伝子 ID	8412.0
SwissProt ID	O75815
免疫原	抗血清はヒト BCAR3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 761-810

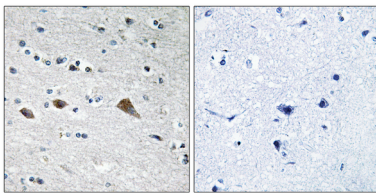
背景

乳がん抗エストロゲン抵抗性 3 (BCAR3) Homo sapiens 乳がんは、成長と進行を最初はエストロゲンに依存しており、タモキシ

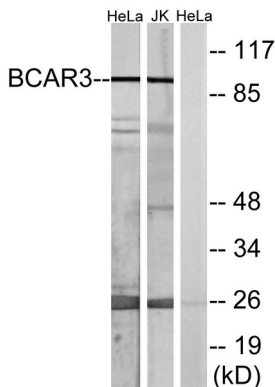
フェンなどの抗エストロゲンによって阻害できます。しかし、乳がんは進行して抗エストロゲン抵抗性になります。乳がん抗エストロゲン抵抗性遺伝子3は、エストロゲン抵抗性の発生に関与する遺伝子の探索中に特定されました。この遺伝子は、ヒト乳がん細胞でエストロゲン非依存性の増殖を引き起こす細胞内シグナル伝達の構成要素をコードしています。このタンパク質は、細胞チロシンキナーゼシグナル伝達分子の特徴である推定 src ホモロジー 2 (SH2) ドメインを含み、細胞分裂周期タンパク質 CDC48 と部分的に相同性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする複数の転写バリエーションが見つっています。 [RefSeq 提供、2012年5月],機能: アダプタータンパク質として作用し、活性化成長因子受容体を乳がん細胞の増殖を制御するシグナル伝達経路に結合させる可能性がある。過剰発現すると、乳がん細胞株に抗エストロゲン抵抗性を付与する。また、細胞外マトリックスタンパク質への細胞接着によっても制御される可能性がある。 ,PTM: チロシンがリン酸化されている。 ,類似性: Ras-GEF ドメインを1つ含む。 ,類似性: SH2 ドメインを1つ含む。 ,サブユニット: BCAR1、NEDD9、PTK2、および PTPN1 と相互作用する。 ,組織特異性: 普遍的に発現する。いくつかの癌細胞株で認められるが、非悪性乳房組織では認められない。 ,

研究分野

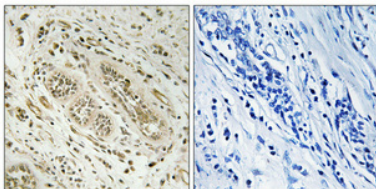
画像データ



BCAR3 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像です。



BCAR3 抗体を用いた HeLa 細胞および Jurkat 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



パラフィン包埋ヒト乳がんの免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高压高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。